

## 「和紙」はいつから「和紙」？



私たちキュアテックスの原点は、  
独自開発の和紙糸〈キュアテックスヤーン〉。

素材は、あくまでも、単なる「紙」ではなく「和紙」。

え、「紙」と「和紙」ってどう違うの、同じじゃないの、  
という声が聞こえてきそうです。

もちろん、かつては  
日本で「紙」といえば「和紙」でした。  
「和紙」しかない時代は、  
「和紙」という言葉はなく、  
「和紙」はシンプルにただ「紙」と呼ばれていたわけです。

では、「紙」はいつ「和紙」になったのか。  
「紙」はなぜ「和紙」になったのか。

当たり前の話ですが、  
明治以降に西洋から入ってきた「紙」が、  
それまでの日本の「紙」とは違っていたので  
両方を区別する必要に迫られ、  
西洋から入ってきた紙を「洋紙」、  
もともと日本でつくられていた紙を「和紙」  
と呼ぶようになった、ということ。

でも、印刷に適し、大量生産に向く「洋紙」が  
生活の中にどんどん浸透していくと、

いつのまにか「洋紙」は単に「紙」と呼ばれるようになり、  
単なる「紙」とは違う特別な紙として、  
「和紙」の方が区別される状況に。  
立場が逆転してしまったわけですね。

ちなみに、こんなふう  
時代の変化に伴って  
もともとあった言葉ではうまく伝えられなくなって  
意味や内容は変わらないのに呼び名が変わることを  
レトロニムというそうです。

「新幹線」が開通した際、  
もともとあった鉄道を区別する必要が生じ、  
「在来線」という名称が生まれたり、  
「人工芝」が登場したことで  
単なる「芝」が「天然芝」と呼ばれるようになったり。  
レトロニム、身近に意外とたくさんありそうですね。